

⑥ 書 く (文・文章)	文章の中で指示語を正しく使う	2 3 4	34.4 81.5 71.5	62.5
	文を続けて文章を作る	二 三	66.3 65.1	65.7
	ことばを続けて文を作る	四	55.4	55.4
	段落の区切りが正しく主題要旨の明確な文章を書く	五 1 ア イ 2 3	56.5 54.3 59.1 37.5	51.9
	内容にあった文体を使って書き分ける	六 1 2	80.9 83.0	82.0
	計	14		63.8

2. 結果の考察

① 概 観

	文 字	語 句	文・文章
読 む	60.9	65.6	64.7
書 く	51.8	86.6	63.8

上の表は、この診断標準学力テスト問題の、各領域ごとの平均正答率を示したものである。この表をもとにして概観すると、次のようなことが言える。

(1) 基礎的な能力が身につけてきている。

この学年の領域別正答率でもっとも高いのは「書く」の語句の86.6%であるが、「読む」の文字、語句、文・文章、「書く」の文・文章なども、他の学年と比較して割合によくでき

ており、全部で6領域のうち、5領域までが60%以上という高い正答率を示している。このことは、児童たちの国語に関する基礎的な能力が、定着しつつあることを表わしているといつてよいだろう。それにつけても、残りの1領域「書く」の文字については、いまいつその努力が必要である。

(2) 読解能力が高く安定しているのにたいして、表現能力には高低の波があり不安定である。

一般に正答率が高いとはいっても、その内容を、「読む」と「書く」とに大別して考察してみると、次のような点を指摘することができる。すなわち、「読む」の方は、文字が60.9、語句が65.6、文・文章が64.7といずれもみな60%台の中層から下層に集中して安定しているのにたいして、「書く」の方は、最高の語句の86.6と最低の文字の51.8%との間には大きな開きがあり、きわめて不安定な状態を示している。ということは、表現能力の開発の状態は、